

研究課題

夢や目標をもち、主体的に活動する生徒をはぐくむカリキュラム

副題

～地域と進めるキャリア教育を中核にしながら～

学校名	上越市立城北中学校
所在地	〒943-0827 新潟県上越市栄町4-24
学級数	17
児童・生徒数	496名
職員数/会員数	48名
学校長	竹田 幸雄
研究代表者	大塚 啓
ホームページ アドレス	http://www.johoku.jorne.ed.jp/



1. 研究主題設定の理由

平成 16 年度の当校のキャリア教育導入期における学校評価（自己評価）では、進路指導にかかわって次のような課題が挙げられた。

- <生徒の課題>・将来の目標がつかめず進路実現に対して不安がある。
・精神的、社会的な自立心が不足している。
- <教師の課題>・進路指導が進学指導に陥りがちである。
・社会や家庭環境の変化に対応した生き方指導が困難である。

一方、今日の社会では、少子高齢化や雇用の多様化などを背景として将来への不透明さが増すとともに、フリーターやいわゆる「ニート」が大きな社会問題となっている。家庭や地域の教育力の低下、子どもたちの基本的な生活習慣の乱れ、学力や体力の低下など、教育を取り巻く諸問題も蔓延している。

学校内外のこのような状況を受け、私たちは、生徒が明確な目的意識をもって日々の学校生活を送り、「生きる力」を身に付けることが何よりも大切であると考えた。そして、主体的に自己の進路を選択・決定できる能力や、社会人・職業人として自立していく能力等をはぐくんでいく必要性を感じ、標記の研究主題を設定した。

2. 研究の目的

本研究は、平成 16 年度から本校が取り組んできたキャリア教育、とりわけ「統合カリキュラム」と「地域交流活動カ

リキュラム」を地域と協働で推進してきたことによって、生徒のキャリア発達がどのように進んできたかを明らかにすることを目的とする。

3. 取組の概要

(1) 「付きたい力」の設定

本研究で参考にしたのは「勤労観・職業観をはぐくむ学習プログラムの枠組み」である。私たちは、ここで示されている 4 能力領域と 8 能力を「付きたい力」として、様々な教育活動の計画案や指導案の冒頭部分に具体的に明示して全職員で共通理解を図ることにした。

4 能力領域	8 能力
人間関係形成能力	自他の理解能力 コミュニケーション能力
情報活用能力	情報収集・探索能力 職業理解能力
将来設計能力	役割把握・認識能力 計画実行能力
意思決定能力	選択能力 課題解決能力

(国立教育政策研究所 平成 14 年)

次に挙げるのは、清掃指導計画における人間関係形成能力の「付きたい力」の例である。

自他の理解能力	・自分がみんなに役立っていることを感じ、仕事に対しやりがいをもつ。
コミュニケーション能力	・協力したり声を掛け合ったりしてよりきれいにしようとする。 ・仲間の努力やがんばりを称え、自分もがんばろうという意欲をもつ。

(2) 家庭・地域との協働

キャリア教育を推進するのは学校だけではなく、家庭・地域の協力・連携が不可欠である。温かな眼差しを地域の子どもたちに向け、学校も家庭も地域も総ぐるみで子どもを育てる風土をつくり出す。様々な立場の人との豊かな対人関係の中で温かく見守られ、はぐくまれてこそ、自己有用感や自尊感情が育ち、それが生徒のキャリア発達の大きな支えになると考えた。

(3) 二つのカリキュラムの提案

①道徳・特活・総合の「統合カリキュラム」

これは、人間の生き方を追求する三つの領域でそれぞれに行っている学習を、生徒の学びや意識の連続性を考え、題材を関連させたり順序を入れ替えたりして、これまで以上の学びの効果を得ようとしたものである。各学年とも次のような取組を構想した。ここに挙げたカリキュラムは、毎年工夫改善を繰り返しながら取り組んできたものである。

1年生テーマ 統合カリキュラム	「人に学び、地域に学び、新しい自分を発見しよう」 ～身近な地域を知り自分とのかかわりを考える～ ・模擬店舗経営活動「チャレンジショップ 5月～9月 Rikka」 ・職業の世界「働くことと生きること」 9月～12月 ・新入生入学説明会の「学校説明会 12月～2月 Project」
2年生テーマ 統合カリキュラム	「Open Your Eyes → Open Your Heart」 ～他の地域を知り、身近な地域を見つめ直す～ ・連続5日間の職場体験「上越『ゆめ』チャレンジ」 4月～9月 ・生徒会選挙に向けて「明日の城北を考え 10月～11月」 ・修学旅行 Project「私は上越観光大使」 11月～3月
3年生テーマ 統合カリキュラム	「Try to Be the Only One」 ～将来を見つめ、自分の生き方を考える～ ・希望する進路を目指して「高等学校を訪ねよう」 5月～10月 ・私が選ぶ自分の進路「夢の実現に向け 10月～12月」 ・感謝と自立「卒業 Project を成功させよう」 1月～2月

②「地域交流活動カリキュラム」

ここに挙げたのは、学校、保護者、地域が協働で取り組んでいる活動である。当校では、これまでも三者がそれぞれに行事や活動を行ってきたが、ここでは、それらを生徒と社会

4月	お花見給食会
5月	校庭の植栽活動
7月	お茶会の体験教室、校庭の草取り
8月	地域のお祭り、校地整備作業
9月	体育祭地域交流種目
10月	赤ちゃんふれあい体験、地域遠足、地域合唱団、演劇団スタートライン
11月	冬囲い男結び講習、年賀状づくり講習
12月	おせち料理講習会
2月	新入生保護者入学説明会

※月1回：地域作品展示 週1回：読み語りの会

とのかかわりの場としてとらえ直し、豊かな対人関係づくりができるよう取り組み方を工夫した。

(4) ICT機器の整備

私たちはパナソニック教育財団からの支援を受け、生徒のキャリア発達を支援するべく各種 ICT 機器の整備を次のように行った。

- ・各階にキャスター付きのテレビ・ビデオのセットを用意し、普通教室への移動を容易にする。
- ・プロジェクターと書画カメラ、スクリーンのセットを特別教室に常設する。
- ・デジタルカメラを20台用意し、2人に1台の割合で授業活用できるようにする。



特に、授業においてはパワーポイント等を活用したプレゼンテーションが増加し、各種教材や資料の提示においては大きな画面で分かりやすい提示ができるプロジェクターの使用頻度が飛躍的に高まった。また、書画カメラは、生徒に注目してほしい部分を拡大して示すことができ、学習への理解を深めようと活用を工夫する教師の姿が多く見られた。

また、生徒もデジタルカメラやデジタルビデオカメラ等を活用して取材活動を行ったり、コンピュータを活用してまとめや発表資料づくりを行う場面が増えるなど、特に情報収集・活用の場面でICT機器を有効活用する姿が多く見られた。

(5) 「視覚的カリキュラム」の活用

カリキュラムをマネジメントする際には、上越市教育委員会の上越カリキュラムで示された視覚的カリキュラムを活用した。ここでは、道徳、特活、総合の「統合カリキュラム」の題材の関連が見えるように工夫した。下の表は1年生の視覚的カリキュラムである。

並べる！	決す！	教データの編集	第1学年カリキュラム表															
			4月	5月	6月	7月	9月	Rikka					説明会Pro		地域交流			
行事等	入学式	生徒会 入会式		いきいき 生徒 総会	社 行 集 中 式 学習	市 内 大 会	地区 大 会	2年生 ゆめ チャレ	チャレ ンジス Rikka	体 育 祭								
道徳	中学生 としての 自覚	明るい いきま 集団生 活ときま り	望ましい 習慣	男女の 理解	集団生 と ルール	人権 集 中 学 習 の 心	思いや り 自分 の 心	自分 の た た か い	自然 を は ぐ く む	自分 を 完 つ め る	立 場 を か え て	社会 建 設	命 の 重 さ					
学活	学期開 き	中学生 になっ て の 決 意	学級組 の 立 立	私たち の 未 来 の 夢	学級 組 の 決 意	生徒 総 会 に 向 け た 学 級 討 議	中 国 語 の 決 意	学級 組 の 決 意	喫 煙 防 止 教 育	電 話 防 止 教 育	電 話 防 止 教 育	期 末 テ ス ト に 向 け て	各 人 に 向 け て	1 学 期 の 反 省 と 評 価	体 育 祭 の 生 活 設 計	持 続 的 な 活 動	夏 休 み の 活 動	
総合	中学校生活 オリエン テーション	よ い 人 間 学 習	小 学 校 の 総 合 的 な 学 習	小 学 校 の 総 合 的 な 学 習	生 き 生 き の 学 習	地 域 学 習 の 計 画	Rikka オリ エン テー ション	電子レ ク ア ア プ ロ シ ョ ン	ア プ ロ シ ョ ン	ア プ ロ シ ョ ン	ア プ ロ シ ョ ン	ア プ ロ シ ョ ン	ア プ ロ シ ョ ン	ア プ ロ シ ョ ン	ア プ ロ シ ョ ン	ア プ ロ シ ョ ン	ア プ ロ シ ョ ン	ア プ ロ シ ョ ン
			6	1	1	3	2	2	1	2	1	2	2	2	2	2	2	2

4. 実践例

(1) 「統合カリキュラム」の実践例（1年生）模擬店舗経営活動「チャレンジショップRikka」

この模擬店舗経営活動は、もともと県立高田商業高校の商業クラブが上越市の本町商店街や商工会議所とタイアップして行っていた活動である。そこに小学校、中学校、大学が加わり、当校1年生がこの経営の役割の一部を担うことになった。生徒は、ガイダンスの後、人事総務部、営業部、販売促進部、広報部、店舗デザイン部、経理部の6部門に分かれて、開店準備から夏休み中7日間の販売に至るまで、次のような活動を展開した。以下、その一例を示す。

学級活動…webデザイナーやスーパーマーケットのレジ係、経理の専門家など、その道のプロフェッショナルから仕事内容や意義、留意点を学ぶ。
 総合…高校生からビジネスマナーの礼儀作法を学んだり、たくさんのお客さんに来てもらえる方策を話し合ったりする。また、活動の中間発表や最終発表を行う。
 道徳…「思いやり」のテーマで、自分や仲間の気持ちを大切にしたい表現を習得するためのアサーショントレーニングを取り上げたり、理想の実現を目指してひたむきに努力した人の姿に学んだりする授業を実施する。

このように、道徳、特活、総合を模擬店舗経営活動とリンクさせ、かつ、統合カリキュラムとしての目標と各領域の目標を達成するように学習の流れを構想し、実践した。

(2) 「地域交流活動カリキュラム」の実践例

21年度は、学校、保護者、地域の三者が協働しながら年間を通じて20回以上の催しを実施した。たとえば、10月の合唱祭では、かつてのPTA合唱団が発展してできた地域合唱団が素晴らしい合唱を披露した。愛の風文庫は、地域の大勢の方々から寄贈していただいた本であり、当校の図書室の書架に既に千冊を越えている。地域のだれでも借りに来ることができるシステムを整えた。読み語りの会は二名のボランティアが昼休みを活用して週一回開催している。平均15名程の生徒が興味をもってその活動に参加しており、21年度の読書週間には、生徒自ら読み語りの会を行う姿が見られるまでになった。その他、校庭の植栽やお茶会の体験教室、青少年演劇集団スタートラインや子どもフォーラム等、月に1～2回、様々な活動を展開している。

5. 成果と課題

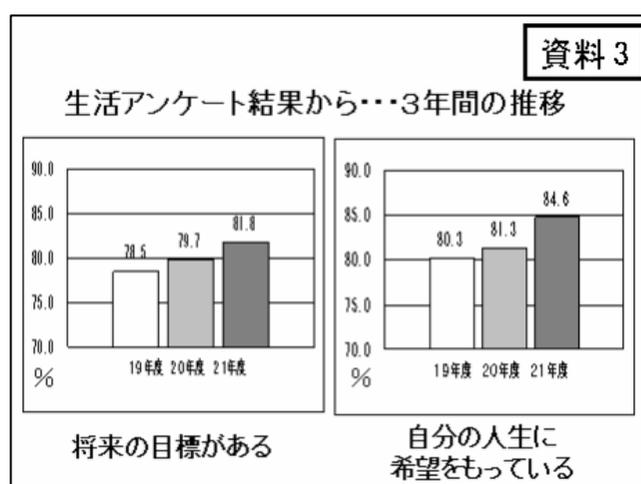
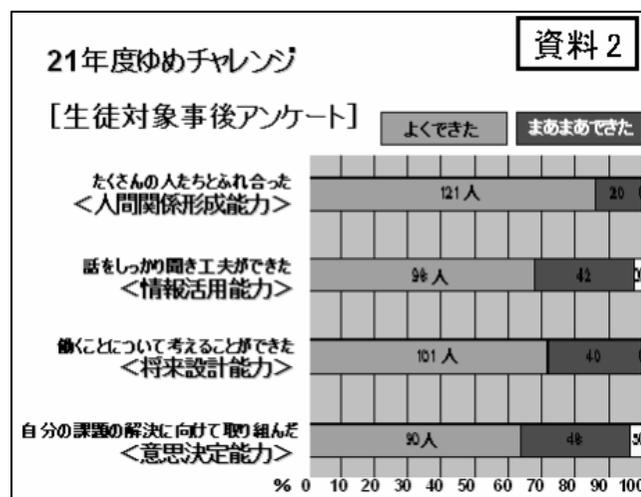
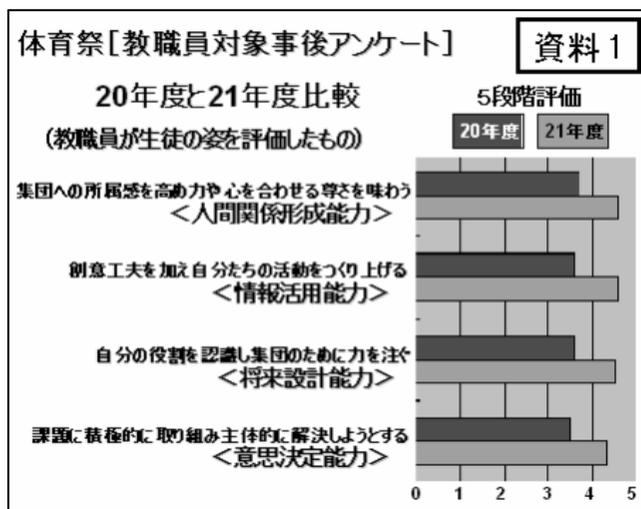
(1) 資料から読み取れること

資料1では、教職員が生徒の4能力領域を5段階評価した平均値が、21年度に一段と向上している。

資料2では、4能力領域とも、ほとんどの生徒が肯定的な評価をしている。

資料3では、肯定的評価が年々上昇している。

また、近年学校に数多く寄せられる地域住民や保護者の次のような声（資料4）からも生徒の成長の姿をうかがうことができる。



資料4

「昔と変わらない穏やかな子どもたちでした。落ち着いた授業の様子、活発な生徒の様子がうかがえていい雰囲気でした」(保護者)「学校に行ったら生徒が気持ちのよい挨拶をしてくれてとても感じがいい。」(地域住民)

(2) 要因

このような生徒の姿が見られるようになった要因を次のように考える。

- ・全教職員が「付けたい力」を意識して一致の体制で指導を行ったこと。
- ・導入した ICT 機器の効果的利用により、授業への理解が深まり、諸活動も活性化したこと。
- ・道徳・特活・総合の「統合カリキュラム」で生徒が生き方を深く考えるようになったこと。
- ・「地域交流活動カリキュラム」で生徒が大人とのコミュニケーションを深め、自己有用感や自尊感情が育ってきたこと。
- ・小中連携で募集した地域ボランティアの登録者数が 220 名を越え、各種活動を通して地域住民が学校を応援しようとする気運が高まってきたこと。

(3) 今後の課題

一人一人に目を向けてみると、まだまだキャリア発達が十分でない生徒がいる。たとえば、コミュニケーションスキルの不足から良好な人間関係をなかなか築くことができない生徒、自分の役割を責任をもってやり遂げる努力が不足している生徒などである。今後、個々に目を向けたきめ細かな指導を更に徹底する必要がある。

また、小学校や高等学校とのキャリア教育の視点での連携も重要である。そこで、当面学区の小学校との連絡会を活用し、小学校への働き掛けを強めていきたい。

参考文献

「キャリア教育入門」三村隆男 実業之日本社（2004年10月）